

## 2. アスベストへの対応

### 1. 日頃から留意すべき事項

アスベスト含有建材に対する認識を深め、必要な対応等の危機管理意識を身に付け、学校園が行う校舎等の修繕に際しては、関係法令に基づいたアスベスト関連の適正な手続きを遺漏なく行うようにする。

#### ◆アスベスト（石綿）とは

- ・アスベストは、天然の鉱物で、極めて細い繊維（直径は髪の毛の 1/5,000）であり、耐火、断熱、防音に優れた特性を持ち、主に建築材料として使用されていました。アスベストの使用が進む一方で、その粉じんを吸い込むことによる健康被害が明らかになり、昭和 50（1975 年）年頃から法令等による規制が行われてきました。
- ・アスベスト含有建材については、その重量の 0.1%を超えてアスベストを含有するものが法規制の対象となっています。また、アスベスト含有建材は、その発じん性（飛散性）の度合いによる建材レベルの観点から、「レベル 1 建材（アスベスト含有吹付け材）」、「レベル 2 建材（アスベスト含有保温材等）」、「レベル 3 建材（アスベスト含有成形板等）」として便宜的に分類されています。
- ・使用中の建築物等のアスベスト含有建材の損傷や劣化による飛散やばく露を防ぐために、施設管理者は、建物内外のアスベスト含有建材の使用箇所の把握、改修等工事による使用状況の変化の記録を行い、また使用箇所の定期的な点検により劣化や損傷などを早期に発見する必要があります。

- ◆アスベストに対する認識や必要な対応等を理解し、危機管理意識を高めるため、市ホームページより以下の参考資料（マニュアル等）をダウンロードし、情報の共有及び保管を行ってください。
- ・「堺市アスベスト取組方針（改定版）」（令和4年3月 堺市アスベスト対策推進本部）
- ・「堺市公共建築物等におけるアスベスト含有建材点検・管理マニュアル（改訂版）」  
（令和4年3月 堺市）

○学校園の平面図毎にアスベスト製品の使用状況を記載した調査図（台帳）（平成 29 年度配布）から、施設内のアスベスト含有建材の使用箇所と建材レベルを把握し、使用箇所の定期的な点検により、損傷や劣化等を早期に発見できるよう努める。学校園の校務をつかさどる校園長は、施設の管理者として、上記の情報が重要な資料であることを、次の施設管理者へ説明を行ったうえで、引継ぎを行わなければなりません。

○学校園の修繕（校舎等修繕料）を行う際には、関係法令（大気汚染防止法、大阪府生活環境の保全等に関する条例等）に基づき、アスベスト建材の有無についての事前調査（「アスベスト事前調査の手引き（令和3年9月以降）」参照）やアスベスト建材を除去等するための届出が必要となる場合があることに留意し、遺漏のないよう適正な手続きを行う。

○その他、アスベスト含有建材だけでなく、天井部分の不具合（天井ボードの剥がれや亀裂、天井構成材の破損及び欠損等）等もその状況（天井裏にアスベスト含有建材がある場合等）によっては、アスベストばく露の防止につながるものであるため、学校園の施設・設備・備品等の安全点検を全教職員で確実にを行い、安全を確保し、速やかに必要な修繕（補修等）を依頼してください。

## 2. 緊急対応のポイント

### ＜具体的事例＞

学校園の安全点検、もしくは日常管理の過程で新たにアスベスト含有の疑いのある建材を発見した場合

⇒①速やかに校園長に報告

②カラーコーン等による立入禁止措置等を行い、児童生徒等が立ち入らないよう指導

③学校管理部学校施設課に連絡し、対応を協議

## 3. 工事(校舎等修繕料)対応のポイント

### ＜具体的事例＞

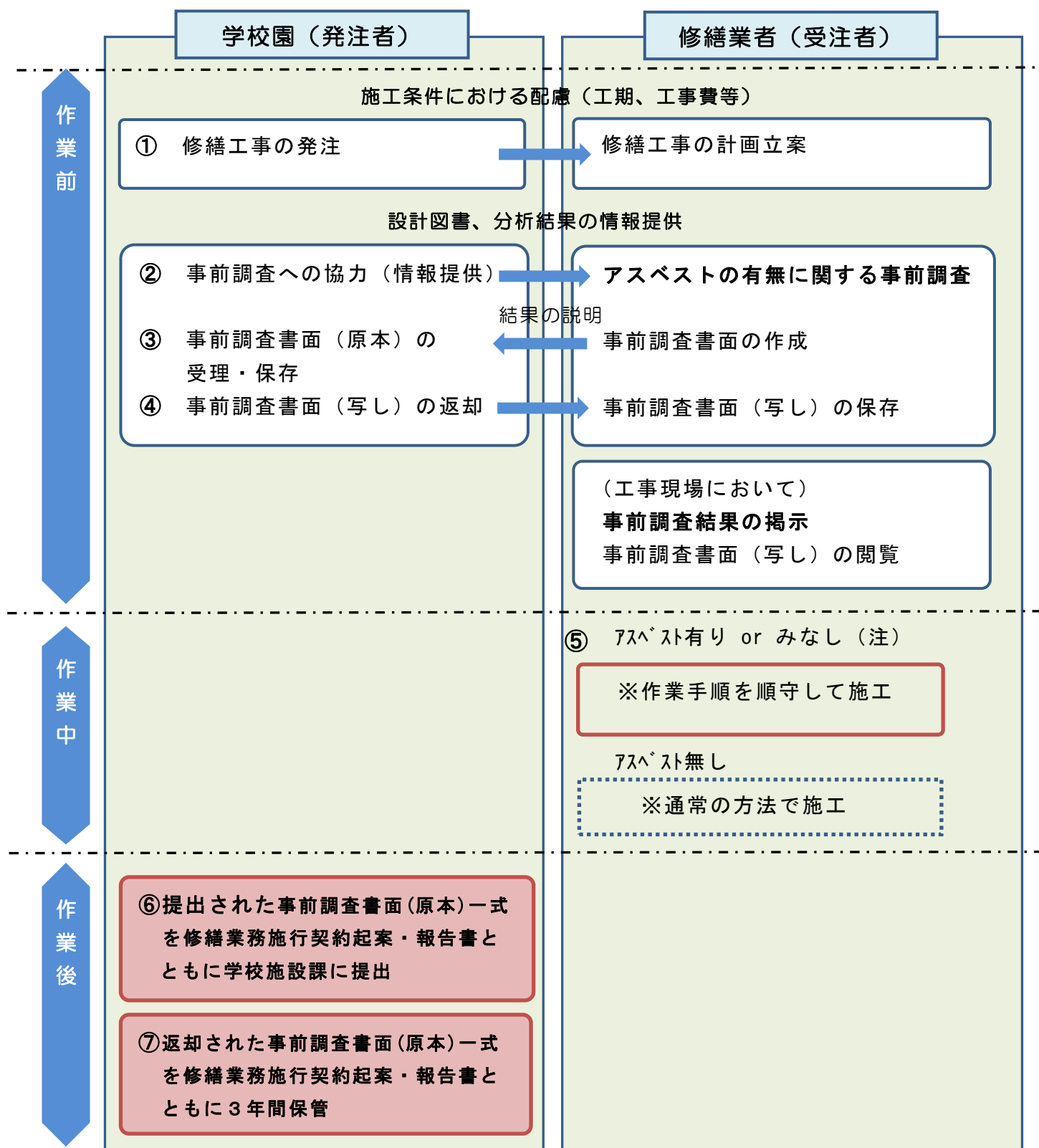
教室の天井ボードに剥がれがあるため、補修(天井ボードの張替・校舎等修繕料)を行いたい。学校園(発注者)や修繕業者(受注者)は、アスベストを含有しているかどうかに関わらず、どのような手続きが必要か。

⇒大気汚染防止法等の関係法令に基づく事前調査書面が必要です。

(ただし、事前調査対象外の工事がありますので、「アスベスト事前調査の手引き」で必ずご確認ください。)

○次頁「アスベストの事前調査に関する事務処理のフローチャート」を参照し、適正な手続きを遺漏のないよう行ってください。

## ◆アスベストの事前調査に関する事務処理のフローチャート



（注）実施する修繕工事等の事前調査結果がアスベスト有り(みなし含む)の場合、作業開始前に関係法令等の届出手続等が必要となる場合があります。